

今年のお正月にベトナムのダナンという街を訪れた。年末の忙しさにかまけて下調べも十分にせず、「ビーチリゾートらしいから、ホテルのプールとかでのんびりしたらいいわ」と、雨季であることも知らずに海パン持参で飛行機に乗った。現地に着いたがTシャツ一丁でいるのにも肌寒く、小雨もばらついている始末で、ちょっと当てが外れた感じがした。それでもホテル近くのレストランで生春巻き、フォーといった

以前から知っていたベトナム料理だけでなく、バインミー、バインセオなども美味しいという新しい発見もあり、十分に楽しめた。

2日目も市街地に出て、ビッグCというショッピングモールのようなところで買い物などをして楽しく過ごすことができた。しかし最後の1日の予定が思い付かず、以前ドバイに行った時に1日観光でお世話になったサイトでダナン関連を検索したとこ



医界サロン

ホイアンの景色

広報委員 太田 祥彦

ろ、ちょうど良いツアーがあったので、早速飛びついて参加することにした。

翌日、バスがホテルまで迎えに来てくれた。最初の行き先はミーソン遺跡というところで、ベトナムの誇る世界遺産のひとつである。ベトナム中部から南部で栄えていたチャンパ王朝の時代のものということであるが、とても立派なものであった。しかし、かつてのベトナム戦争で大きく破壊されている部分もあり、ベトナムという国の負の歴史のようなものも感じた。次にバスはホイアンという街に向かった。日本語の達者な現地のガイドさんも大変博識で、日本とホイアンの街の関係をうまく説明してくれた。私自身は全く知らなかったのだが、その昔、チャンパ王朝の末裔が統治していたこの地に1,000人以上の日本人が住んでおり、シルクロードの一部をなす貿易

に従事していたらしい。しかし、ある時を境にそのほとんどの日本人がホイアンからいなくなった。当時の幕府が行った鎖国令によるものである。それまでは朱印船が頻繁に行き交っていたため、帰国の指示などの連絡もスムーズになされたために比較的速やかに移動することになったらしい。

たまたま参加したツアーであったが、アジアの一国で、ベトナム戦争で大変であったという知識しかなかったこの国を大変身近に感じる事ができた。ホイアンの夜は街灯がほとんど点かず、ランタンの優しい灯りに彩られる。この素晴らしい風景はオススメです。かつてこの地に住んでいた江戸時代の日本人達も帰国してから、懐かしくこの風景を思い返していたかもしれない。そして強く、この地に戻りたいと思ったに違いない。